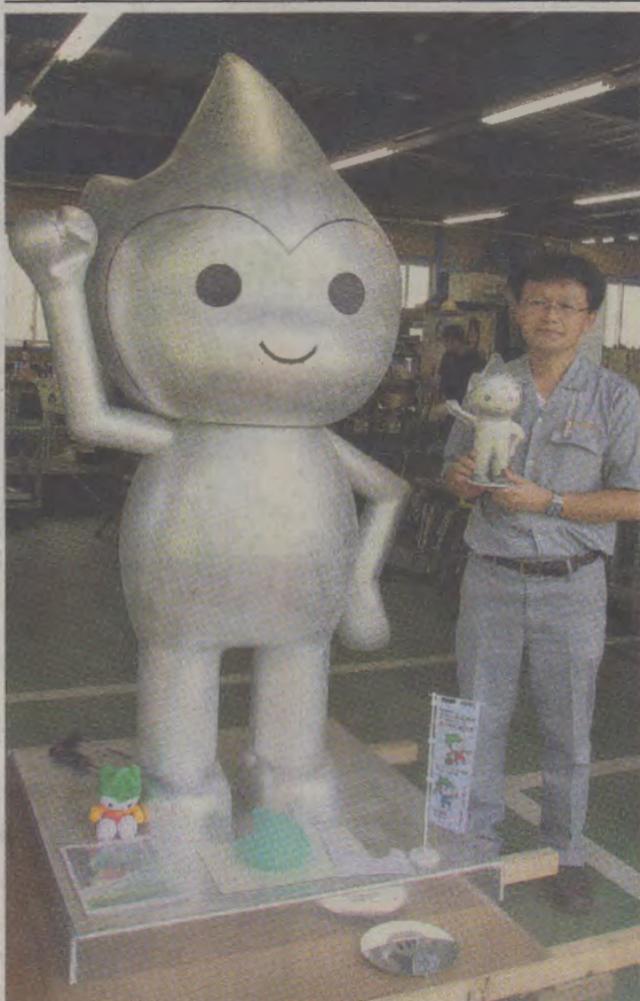


新幹線の技で国体応援

下松の山下工業所、アルミ合金ちよるる制作



を作った。高さ2桁を超えられ、山口国体、山口大会の「大作」。近く市に寄贈の盛り上げに一役買う。



アルミ合金製のちよるるの横に立つ山下竜登社長

同社の打ち出し板金技術は、新幹線など鉄道車両の先頭部分の流線型を形作る。同社はこの技術を使い、これまでにアルミ合金製のチエロやマグネシウム合金製のバイオリンなどを制作。全国に技術をPRして

いる。

ちよるるの制作は、山口国体下松市実行委員会が、山口国体、山口大会で訪れる全国の選手や観客に「ものづくりのまち下松」をPRしようと呼びかけ。同社は原型作りから取り掛かり、約1カ月かけて高さ205センチのちよるるを作った。

材料は新幹線車両に使用されるのと同じアルミ合金。各パーツを打ち出し板金技術で作成した。打ち出しのほとんどの作業は、2008年度に厚生労働省から現代の名工として表彰を受けた国村次郎さん(66)が担当。頭や顔の表面など、ところどころに打ち

出し板金技術が生み出す丸みを見ることが出来る。今後、顔に磨きを施すなど最終工程を経て完成する。

同社は前回山口国体が開かれた1964年に創業。山下社長(47)は「国体で山口県を訪れた人たちにいい印象を持って帰ってもらいたい。そのお役に立てればうれしい」と話している。

ちよるるは市に寄贈され、10月25日までに、山口国体のバスケットボール(成年男女)と山口大会のバスケットボール(知的障害者)が開かれる同市河内の下松スポーツ公園体育館に置かれる。